

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	雪印メグミルク(株)海老名工場新工場棟	階数	地上6F
建設地	海老名市中新田5丁目26-1	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	560 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 予定	評価の実施日	2013年12月1日
敷地面積	48,951 m ²	作成者	(株)オー・エヌ・オー大野設計
建築面積	5,525 m ²	確認日	2013年12月1日
延床面積	16,906 m ²	確認者	(株)オー・エヌ・オー大野設計

外観/バース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: A: B: B+: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.8	Q3のスコア = 3.0
音環境環境 温熱環境 空気環境	機能性 耐用性 対応性	生物環境 まちなみ 地域性

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.8	LR2のスコア = 3.1	LR3のスコア = 3.2
建物の 自然エネ 設備システ 効率的	水資源 非再生材料の 汚染物質	地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項

総合	その他
工場の製造エリア、事務エリアのゾーニングを明確に行い、全体の配置を行った。製造エリアについては、各室に求められる清浄度や水の使用に応じた仕上や空間を盛り込んだ計画とした。また、建物機能を継続して利用していくため、更新、拡張時や修繕時のメンテナンス性を見込み設備機器のスペースの確保し、仕上材の耐用年数や改修性に配慮した。	特になし。
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 耐久性のある配管材の使用。設備の更新、修繕について、構造材と仕上げ材とも痛めずに行えるように、メンテナンススペースとルートを確認した。
LR1 エネルギー 照明設備にLED照明を用いている。主要なエネルギー消費を把握し、分析を行い、年間エネルギーの消費量の目標値の計画している。屋外灯にハイブリッド照明(太陽光発電設備+風力発電)を用いている。	LR2 資源・マテリアル 工場の再生水をトイレの排水に利用する。構造材料にリサイクル製品を利用する。躯体と仕上げの分離が容易な乾式工法を用いている。
	Q3 室外環境(敷地内) 既存工場に対する増築であるので、敷地に制限があるが、既存緑地を極力確保するように配慮した。設備配置は、屋上と地上に集約して配置した。また、出入口を一元管理することで、防犯性、防災性を強化する。
	LR3 敷地外環境 ゴミの減量化に取り組んでいる。周辺の交通に影響を与えないように、十分な駐車スペースを確保する。照明設備については、周辺への影響を考慮した総合効率の高い照明計画としている。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される